

ボランティア通訳の抱負

卓球で飾れアジアと新潟市



小菅佐知子さん (会社員、24歳) パキスタン担当

選手団が一堂に集まるとかなりの数になり、新潟市のいたる所で市民と出会い、交流することでしょう。その場で少しでもお互いにコミュニケーションが円滑にできるようにお手伝いしたい。そして、アジアに近い港をもつ新潟として、アジアの人々を知る良い機会にしたい。



星 幸邦さん (会社員、36歳) インドネシア担当

アジア諸国より参加される方々に少しでも新潟大会が友好的で楽しい大会の思い出となつて残るよう、微力ながら頑張りたいと思っています。また、私がインドネシアでいろいろお世話になった恩返しの意味でも友好第一でお役に立ちたいと思っています。



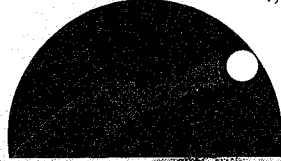
神田 武夫さん (無職、64歳) 中国担当

欧米一辺倒の中で、アジア諸国への優越感や差別感がありはしないか心配だ。親切の押し付けや文化生活の見せ付けは不快感を増すだけ。市民の「暖かい人情」は古来の伝統とともに世界に誇れるもの。国際都市を目指す新潟市。市民こそってアジアを通し視野と心を大きく広げられたらと願っている。



関 清美さん (主婦、37歳) 韓国担当

韓国の文化や習慣、食物などにも触れて、日本との類似性や共通点、認識を新たにしました。この度の大会に、学習したことがささやかながらも役立つならばうれしいです。広いアジアの、どの国の人も気軽に声をかけられるような、リラックスした雰囲気、お手伝いしたいと思っています。



1988 NIIGATA



小田島信子さん (主婦、39歳) シンガポール担当

ボランティア通訳への応募は軽い気持ちでのチャレンジでしたが、何回かの研修を受けるにつれて責任の重大さを思い知らされております。技術的不足は度胸と愛嬌(きょう)と心で補う事にして、後はインシヤラ(神の意のまま)です。



開会式でひまの遊戯」を演じ、選手たちに贈るのレイをかける。沼垂幼稚園の園児たちおゆうぎを、いっしょうけんめいにやります。みてください。せんしゅのおにいさん、おねえさんたちに「がんばってください」といって、レイをかけてやりま。ことば、きつとつうじると、おもいます。



早川 美穂さん (新大3年生、同大卓球部)

一生のうちで、またない大きな国際大会に出合えてうれしい。アジアの国々からやってこられる選手の方々、思いっきりプレーして下さい。私たちも勉強させてもらいます。大会を契機に、もっと卓球が普及したらいいな...

大学で卓球に励む

国際審判員の抱負



庄司 弘さん (日本卓球協会理事、審判委員会審判委員長)

今回新たに62人の国際審判員が県内から誕生し、地元新潟での大会を成功させようという意気込みが感じられます。アジア卓球大会は世界でも1・2位を争うトップクラスの選手が勢ぞろいします。大会で一番目につくのは審判の動きです。国際大会にあふさわしいきびきびとしたジャッジで運営したいものです。



加々見登美子さん (中山4、86歳)

このたび、アジア卓球選手権大会と合わせて、第11回全国レディース卓球大会が5月17日から市体育館で開かれますが、その事務局の一員も兼ねており、大会の成功を祈らずにはられません。市民の皆さんも応援して下さい。



長沢 久さん (旭町通2、47歳)

地元新潟市で国際大会が開かれるとあって、ぜひ競技の進行に携わりたいたいと思ひ、国際審判員試験を受験しました。大会組織委員会との講習会のおかげで合格することができ大変うれしいです。大会の成功に少しでも協力できたらいいなあと思います。



藤田 英治さん (真砂2)

新潟で初めての国際的なスポーツ大会。みんなで気持ちを一つにして、新潟市のきれいな顔を見てもらうことが大切だと思います。生活や習慣が違う国から来ている選手たち、いい意味の日本、新潟を理解して欲しい。

きょう8日、アジア卓球前の中内クリン作戦に参加する



金井 和子さん (小針西2)

せっかくの機会なので、私たちは友好のため、選手・役員の方たちと日本料理と一緒に作ります。日本の、新潟の味をアジアの各国に持ち帰ってほしいと思います。ただ、言葉が通じることが不安ですが...

坂井橋コミセンで選手たちと日本料理を一緒に作る



笹川 浩康さん (和合町3)

今大会はそれぞれの国の情勢はあるけれど、スポーツ、卓球を通じていい意味の絆きずなを作れたらいいなあと思います。また、新潟でいい思い出を作りたいです。私たち市民も応援しています。

街頭でアジア卓球開催の感想を語る

市民の声

広げよう市民の笑顔をアジアの友に

